



次世代被災地視察教育支援

自分自身で
見て、伝え、
備える。

中学生26人 “記者”となって 復興の現場へ

震災伝承新聞が
できるまで



◀ 昨年度制作した
震災伝承新聞

事前オリエンテーション

現地で見て、感じたことを同世代に伝える記事を書くために。

将来の大災害に備える教訓の若き担い手である中学生たちに、宮城県内各地の被災地を視察してもらい、復興の現場取材して震災伝承新聞の記事執筆に挑戦してもらいました。今年度は、仙台市立八乙女中学校・多賀城市立東豊中学校・名取市立関上小中学校の生徒26人が参加。事前に震災による被害状況や訪問先の情報などを予習し、取材方法などを習得するオリエンテーションを各校で開催。記者経験のあるプロジェクトメンバーが各学校を訪ね、インタビューのコツや記事の書き方などを詳しくレクチャーしました。



仙台市立八乙女中学校



多賀城市立東豊中学校



名取市立関上小中学校

被災地視察

仙台市立八乙女中学校 → 亶理町

9月17日、八乙女中1年生の9人は亶理町立荒浜中学校で、防災と観光の両方で使える「あらはマップ」づくりに携わった生徒会役員の伊藤聖那さん、木村心優さん、指導に当たった菅原康広先生、NPO法人海族DMCの太見洋介理事長に制作の経緯を聞きました。

太見さんの案内で、「荒浜防災公園」を見学した後、「あらは海苔合同会社」代表、菊地幹彦さんに海苔養殖について取材。その海苔を使った料理を「トラットリア・デル・ソレ」で味わいました。

漁協直売所「鳥の海ふれあい市場」で震災当時の記録写真を見た後、「わたり温泉 鳥の海」で半田英明支配人と従業員の寒江江佑介さんから、津波襲来時のエピソードと温泉施設を核とする地域再生への展望に耳を傾けました。

あらはマップ▶



「あらはマップ」を手に説明する荒浜中の生徒



海苔を加工する工程も見学



海苔の風味が香るパスタに感動



半田支配人による荒浜再生の取り組み説明

多賀城市立東豊中学校 → 石巻市・女川町

東豊中の2年生9人は10月14日、石巻市泉町にあるゲストハウス「OGAWA(オガワ)」へ。石巻クリエイティブチーム、巻組(まきぐみ)が手がける空き家を再活用する取り組みについて、スタッフの平塚杏奈さんの案内で建物内を見学しました。

「石巻市震災遺構門脇小学校」では、館長のリチャード・ハルバーシュタットさんと、開設に尽力した学芸員の高橋広子さんが出迎えてくれました。館内各所で詳しい解説を聞いた後、この施設が伝えたい教訓や地域の人々が抱く思いを話してもらいました。

女川町では、ダイビングサービス「ハイブリッジ」を訪問。代表の高橋正祥さんと、妻の捜索をきっかけに潜水士資格を取得した高松康雄さんに、女川の海の状況や現在も続く海中捜索などについて聞きました。



平塚さんがゲストハウスを案内



津波火災と垂直避難について解説



震災当時の地域の状況を伝えるリチャードさん



ハイブリッジ店内で取材する中学生たち

名取市立関上小中学校 → 東松島市

自宅が被災した数人を含む関上小中学校の7年生・8年生(中学1年・2年に相当)の8人は10月15日、東松島市での取材に参加。

東松島へ向かうバスには、東松島市立大曲小学校5年在学時に震災を経験し、現在語り部活動に取り組んでいる東北学院大4年の雁部那由多さんが同行。車中で災害に備える心構えを聞き、大曲小では雁部さんの被災体験をもとに深掘りする取材を行いました。

JR陸前小野駅前交流施設「空の駅」では、保存性が高く、災害時でもおいしく食事が取れるレトルト食品の有効性を学び、国内外で人気のソックスモンキー「おのくん」の体験制作に挑戦。それぞれ個性豊かなおのくんを手で記念撮影を行い、取材を締めくくりました。なお、震災伝承新聞では、関上小中学校自身の防災減災活動についても紹介します。



バス車中で被災体験を語る雁部那由多さん



雁部さんの体験談を聞く中学生



完成したおのくんを手空の駅の皆さんと



地域合同防災訓練での避難者対応



島崎 杜和さん(1年)

震災が被災した時、僕は生まれてはいましたが、確たる記憶はありません。それでも震災を知識としては知っています。それは家族やニュースなど多くの人たちが震災について語っているから。これからは僕たちが今回の取材で知った被災実態を次世代に伝える番です。



藤原 音乃さん(1年)

取材でお話を聞いた方は涙ながらに当時を振り返っていました。私はネットやニュースを通して震災のことを知ったつもりでしたが、今回の取材を通して人から人に語り継いでこそ、被災の大変さ、つらさ、苦しさを伝えることができることに気づかされました。



谷津 凧咲さん(2年)

震災遺構門脇小学校を取材して、避難場所選びが大切だと知りました。避難するときは少しでも冷静になれるよう深呼吸をするなど工夫し、大きな災害が起きたときには今回の取材経験を生かして自分の命はもちろん、他の人の命も救えるようになりたいです。



五十嵐 春也さん(2年)

震災で何があったかを語り継いでいくことが、私たちにできる最大の復興支援ということに今回の取材で気がつきました。私は震災時2歳で当時の記憶がほとんどありません。ですが、実際に経験した人から学び、震災を知らない人に伝えていくことができると思いました。



得地 璃湖さん(8年)

取材先で出会ったのは、未来に希望を託して生きる方々でした。震災ですべてを失っても命さえあれば、また笑い合える。その笑顔はともも輝いていました。直接お話を伺うことで、震災を疑似体験する感覚を味わい、改めて命の尊さと伝承の大切さを痛感しました。



大保 颯槻さん(8年)

大曲小5年の授業中に被災した雁部さんが語った体験談からは、震災が心に残した計り知れない傷の深さを学びました。被災した女性たちが作り始めたおのくんが、つらい日々の中で新たな人とのつながりを生んだというお話からも新たな視点を得られたように思います。

現在、中学生記者たちが取材を振り返りながら、2月発行予定の特集紙面の制作に奮闘中です！

私たち賛同企業も、再生と伝承のために「今できること」をともに考え、このプロジェクトに賛同し、推進していきます。

IHI/Aサヒビル 東北統括本部/石巻市震災遺構門脇小学校・大川小学校/岩手日日新聞社/NTTデータ東北/オリックス 仙台支店/キリンビール 東北統括本部/ケーズデンキグループ・デンコードー/劇団四季 光輝ビルテクノ/サッポロビール/サントリー 東北営業本部/JTB 仙台支店/住友不動産 東北事業所/生命保険協会 宮城県協会/大和証券 仙台支店/DICグラフィックス/伝承千年の宿 佐勘/東伸環境 NISHIKIYA KITCHEN/日本製紙/日本製紙クレシア/日本損害保険協会/野村不動産 仙台支店/東日本油化工業/平松剛法律事務所/藤崎/富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ/みちのく企業グループ 三井不動産/三菱地所グループ/三菱重工機械システム/宮城県建設業協会/宮城県自動車整備振興会/明治安田生命 仙台支社/リコージャパン 宮城支社/Rethink PROJECT/河北新報社(順不同)

◎後援/宮城県、福島県、仙台市、石巻市、気仙沼市、多賀城市、名取市、東松島市、南相馬市、亶理町、女川町、浪江町、双葉町、宮城県市長会、宮城県町村会、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会

【お問い合わせ】今できることプロジェクト事務局(河北新報社営業部) tel 022-211-1318

これまでの活動内容や新着情報は「今できることプロジェクト」特設HPをご覧ください。

www.kahoku.co.jp/imadeki/

河北 今できること

検索

facebookページもあります。